

授業科目名 <英訳>	美学美術史学(特殊講義) Aesthetics and Art History (Special Lectures)		担当者氏名	人文科学研究所 教授 岡田 暁生					
配当学年	3回生以上	単位数	2	開講期	前期	曜時限	火3	授業形態	特殊講義
題目	20世紀音楽とは何だったのか(1)								
【授業の概要・目的】									
イギリスの歴史家ホブズボームのいうところの「短い」20世紀は、音楽史にも当てはまる。それは第一次大戦と前後して幕を開け、1970年前後のポストモダンの時代の始まりとともに、緩やかに別の時代へ移行していき、おそらくは1990年前後にほぼ終息した。従来アヴァンギャルド音楽の歴史としてのみ記述されることが多かった西洋音楽史の20世紀であるが、この授業ではそれを、従来の西洋音楽史の「アヴァンギャルド音楽」「アメリカ娯楽音楽」「クラシック音楽の演奏文化」という三つの支流への分裂として眺める。それと同時にこの授業では、「現代」としての20世紀音楽が、「近代」としての19世紀音楽（これはクラシック音楽の全盛時代であり、またヨーロッパのブルジョワ階級によって担われた音楽であった）から、どの程度まで連続的な現象として眺められるべきか、つまり20世紀現代は結局19世紀近代を克服することができたのかできなかったのかという問題に、焦点を当てようと思う。									
【授業計画と内容】									
<p>予定しているのは以下のテーマであり、それぞれに3回程度の授業を充てる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブルジョワ音楽文化としての近代クラシック：フランス革命から第一次大戦まで</li> <li>・音楽史における第一次大戦の意味：クラシックの終焉とアヴァンギャルドの登場</li> <li>・アメリカ娯楽音楽文化を19世紀クラシックの延長上で考える</li> <li>・亡命者の音楽：ウィーン発ベルリン経由ハリウッド着</li> <li>・19世紀音楽はいつ終わるのか：リヒャルト・シュトラウスとシェーンベルク</li> </ul>									
【履修要件】									
特になし									
【成績評価の方法・基準】									
レポートのみによる。									
【教科書】									
<p>使用しない          毎回レジメを配布する。下の参考書の中には高価なものも含まれるが、目次だけでも眺めておけば、授業の参考になるはずである。</p>									
【参考書等】									
<p>(参考書)</p> <p>岡田暁生『西洋音楽史』(中公新書)          ホブズボーム『極端な時代 上下』(三省堂)          アレックス・ロス『20世紀を語る音楽 上下』(みすず書房)          そのほかにアドルノの『音楽社会学序説』及び『啓蒙の弁証法』及び『新音楽の哲学』には頻りに言及する予定なので、ぜひとも一読されたい。</p>									
【その他(授業外学習の指示・オフィスアワー等)】									
オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。									